

令和7年度第1回函館市政策アドバイザー意見交換会 会議録【開会】

1 日 時 令和7年(2025年)11月14日(金) 15:30~17:30

2 場 所 花びしホテル2階「あかしや」

(阿部企画部長)

ただいまから令和7年度第1回函館市政策アドバイザー意見交換会を開催いたします。皆様にはご多用のところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本日の全体進行を務める企画部長の阿部でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

既にご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、去る9月20日に政策アドバイザーの伊藤隆敏様をご逝去されました。ここで、伊藤様のご冥福をお祈りし、哀悼の意を表するために、黙祷をささげたいと思います。オンライン参加の皆様は、着座で黙祷をお願いいたします。会場の皆様はご起立をお願いいたします。それでは黙祷をお願いいたします。

(黙祷)

ありがとうございます。ご着席ください。

本日の出席状況ですが、5名のアドバイザーはリアルで、3名はオンラインでご出席をいただいております。なお、隈研吾様におかれましてはご欠席でございます。また、ゲストスピーカーとして、函館商工会議所中小企業相談所長の永澤大樹様、学生団体 ISARIBI with から佐々木勇人さん、高澤佳乃さん、平松幹浩さんにご参加いただいております。

本日の会議終了は、17時頃を予定しておりますのでよろしくお願い申し上げます。それでは意見交換会の開催にあたりまして、市長よりご挨拶をいたします。

(大泉市長)

函館市長の大泉でございます。お忙しいところお集まりをいただき、またWEB参加いただき大変ありがとうございます。日頃から、函館市の市政運営に関しまして、多大なご支援・アドバイスをいただいておりますことに、この場をお借りして御礼を申し上げたいと思います。

また、今回は、商工会議所、学生団体の ISARIBI with にもご参加をいただき、忌憚のないご意見をいただけることを楽しみにしているところでございます。

昨年度、函館市の観光入り込みが600万人を超えるという出来事がありました。なかなか600万人というのは越えがたい数字だったんですけれども、いろんな要因があり、今回その記録を塗り替えることができました。そのことは観光のことだけではなくて、地域のいろいろな事業者、市民の皆さんの自信、誇りといいですか、非常にこう強い気持ちにつながる出来事だったということ、肌感覚で非常に強く感じているところであります。

そうした思いや力を、ますます強くしていくためにも、市役所、経済界、市民の

皆さんと力を合わせて、函館のまちを少しでも良くするために、全力を尽くしてまいりたいと思っておりますので、本日につきましても、よろしくお願ひしたいと思ひます。

今日は3つのグループに分かれて、アドバイザーの皆さん、それからそれぞれの関係する部局長が参加をします。毎回、私だけがテーブルにつきましてご意見を頂戴しておりましたが、ぜひ部局長にも厳しいアドバイス、叱咤激励、また温かいご助言も含めて、いろいろ意見交換をさせていただければと思ひています。今日は大変勉強させていただきたいと思ひているところでございます。

そして、一点だけ、人口減少について工夫を行っていききたいと考えているものがありますので、それについて少しだけお話をさせてもらいたいと思ひています。

実は、私が市長になった一昨年になります、人口減少対策本部というのを立ち上げました。それまでこうした本部がなかった、私がトップになりまして立ち上げました。そして実際にどう動かすかという、3つの専門部会をつくって、そこでいろんなことを取り組んでいましたが、1つは移住・定住の促進、もう1つの部会が子ども・教育への支援で、3つ目がしごとの創出という、こういう専門部会を3つ作って動かしていたんですが、実は一番難しいのは、しごとの創出のジャンルであります。

これまで2年間、取り組んでまいりましたが、このところをより活性化するためのアレンジ・工夫をしたいと考えておまして、今年中、つまり12月末までの間に、しごと専門部会を廃止しまして、5つのプロジェクトチームをつくって前進させていききたいと考えているところであります。

人材躍動プロジェクトチーム、海洋産業再生プロジェクトチーム、宿泊倍増プロジェクトチーム、都市再起動プロジェクトチーム、「知の都」プロジェクトチームとなっておりまして、それぞれ関係する部局が連携しながらチームを組んで、実際に具体的に動かしていききたいと考えているところでございます。

これは、まずは年内に立ち上げて、それから戦略を練っていかうとするものでありまして、もう少し具体的なやることというのが、1つは、この人材躍動プロジェクトチームがある意味メインになってきますが、仕事を作っていく、産業・雇用を強くしなければならないというのにあたりまして、どんどん人口が減っていく、また生産年齢人口も減っていきますので、早い時期に、これから10年間の間に集中的に新規の雇用を作り出していききたいと考えています。地場産業を再生、それから企業誘致も行います。また、スタートアップの支援、こうした3本柱をしっかりと進めていくためにも、プロジェクトチームを組んで頑張っていきたいと考えているところであります。

雇用を作っていく、企業を誘致するというだけではなく、例えば、性別を問わず、幅広い年齢で、個性や能力が発揮できるような雇用環境、都市環境の形成も図っていききたいと思ひています。

2つ目の海洋産業の再生というのは、一言で言えば、地場の産業を取り戻したいというものであります。例えば、コンブの再生や新しい魚種のブランド化、それか

ら作り育てる漁業で、漁業を再活性化しなければならない。これは、もちろん昔からのミッションであります。それから、函館には集積されている水産加工、造船などがございますので、こうした地域の産業の誇りを取り戻して、世界市場で競争力を発揮できるような環境づくりをしていきたいと思っています。

3つ目は観光になりますが、宿泊倍増プロジェクトチームですけれども、先ほども申し上げたように、昨年、非常に好調でした。道南地域で延べ宿泊数が今、530万人泊ぐらいです。これを倍増すると、1,000万人泊に届くものですから、2033年までと区切りを切っているんですけど、10年以内ということになりますね、1,000万人泊を道南全体で達成して、宿泊の倍増を図っていこうとするものであります。

4つ目は、都市再起動プロジェクトチームですが、これも非常に難しい案件です。いわゆる中心市街地の活性化であります。これも、それぞれの部局で考えているのではなくて、部局の壁を越えて、そしてもちろん私も関わっていきながら、進めていきたいものであります。

最後が「知の都」プロジェクトチームですが、人口減少を止める、そう簡単なことではなくて、おそらく最終形は世界の知性が集うような、魅力あふれた街にならない限り、そういうことはなかなか難しいと考えています。今、函館は国際水産・海洋都市構想というものを進めておりまして、これが非常に尖った取り組みでありますので、そういう海洋研究、そしてAI、ITを融合するなどそうした研究、また国際コンベンション機能も非常に強化をしていくようなことで、その他多彩な取り組み、戦略を考えていきたいと考えています。

まずは立ち上げる、そして走りながら考えていくところをやっていききたいと思っています。なかなか、こうした新たな工夫をどんどんやっていかなければ、一番難しいこの産業の足腰を強くして雇用を作るという部分です。今日もぜひ、皆さんから忌憚のないご意見をいただきながら、少しでも前進できるヒントをいただければと考えておりますのでどうぞよろしく願いいたします。

(阿部企画部長)

本日は、産業・雇用、都市ブランド・観光、ウェルビーイングの3つのテーマごとにグループを構成して意見交換を行います。グループの所属につきましては配付の名簿のとおりとなっております。皆様にはこの後、各グループの会場に移動し意見交換を行っていただきます。

傍聴される方におかれましては、各会場にもお席をご用意しておりますので、お聞きになりたいテーマの会場にご移動をいただきますようお願いいたします。

それでは、ご移動をお願いいたします。